



## 映画封切興行についての考察

川上 一郎

さて、この原稿執筆時点で映画興行関連ニュースで話題を集めているのが Netflix 制作の“Roma”である。1970年代のメキシコシティで生活する一家を描いた作品であり、オスカー賞の10部門にノミネートされており、数年前から業界関係者のあいだでささやかれていた“オスカーノミネート作品の大半は Netflix と Amazon になりそうだ!!”の話題が早くも現実のものとなってきたことから、映画制作・配給・興行の関係者から議論を呼んでいる。この作品は、ARRI ALEXA65 で撮影された白黒映画であるところも注目されるが、当然の事ながら通常の映画配給ルートでは公開されておらず、アカデミー賞ノミネートが発表された時点で、全米最大手の映画興行チェーンである AMC と Regal は通常の商業上映を行っていない作品であるとして映画館に取って集客が望める“オスカーノミネート作品上映週間”の興行対象としないと発表した。また、Netflix がソスカー選考対

象となる為に必要なロサンゼルス地区で1週間以上商業上映される条件を満たすために行った単館映画館での興行成績を発表しないことも映画興行関係者から異論が出ている。

今月号で紹介している米国の映画興行関連データは Box Office Mojo (<https://www.boxofficemojo.com>) から引用しているが、オスカー賞ノミネート作品の興行成績が一切掲載されていない作品が前代未聞と言って良く、昨年のカンヌ国際映画祭で映画館上映の基準を満たしていないから今後エントリー禁止を言い渡される等の、曰く付きであることに間違いは無い。カンヌ国際映画祭が開催されるフランスでは映画作品は3年間のネット配信やDVD販売禁止の規制がある。映画入場券に含まれる映画振興税が上映作品の観客動員数に応じて次回制作資金の援助目的で再配分されるフランス独自の映画振興政策があることから、他国には例を見ない“封切り後3年

間は映画館に行きなさい”とのシバリである。割り切って考えると、芸術性の高い映画作品は3年以上経過しても作品としての価値がある、との非常に厳格な判断であるが、海外市場への展開や、今後のメディア市場への対応については“ケセラセラ”なのではと感じている。

さて、今月号では映画の封切興行について配給側と映画館側の収益配分の現状について昨年度の米国映画興行実績データを元に解説を行っていく。裏付けとなる、詳細なデータも全て添付するのでビジネススクール等で映画関連ビジネスの研究や講義を行っている関係者の方は是非参考にして頂きたい。米国のビジネススクール講義資料では、詳細なデータを引用して解説しているが、日本の講義資料と雲泥の差があることは如何ともしがたいところである。

今年度中には20世紀FOXを傘下に収め、いわゆる“アメコミ”の筆頭出版社であるマーベルコミックスの大半の作品に対する映画化権を手中にするディズニーは、これまでにアニメプロダクションのピクサー買収、そして個人会社であったルーカスフィルムの買収により、実にハリウッドスタジオ総売上上の40%を占める巨大スタジオとなる。

そして、数年前から着々と準備を進めてきた独自の映像配信サイトも2019年に“Disney+”として新規に立ち上がり、Disney・PIXAR・MARVEL・STARWARS・National Geographic、そしてFOXも加わる形で最強の動画配信サイトが誕生し、従来Netflixで配信されていたDisneyチャンネルは2019年で契約

表1 ディズニー 2018年度配給作品の興行成績  
January 1 - December 31, 2018

ランク	作品名	配給	総興行収入	封切 スクリーン数	2018年 興行収入	年度比率	封切日
1	Black Panther	BV	\$700,059,566	4,084	\$700,059,566	100.00%	2/16/18
2	Avengers: Infinity War	BV	\$678,815,482	4,474	\$678,815,482	100.00%	4/27/18
3	Incredibles 2	BV	\$608,581,744	4,410	\$608,581,744	100.00%	6/15/18
4	Ant-Man and the Wasp	BV	\$216,648,740	4,206	\$216,648,740	100.00%	7/6/18
5	Solo: A Star Wars Story	BV	\$213,767,512	4,381	\$213,767,512	100.00%	5/25/18
6	Ralph Breaks the Internet	BV	\$177,616,854	4,017	\$191,059,032	93.00%	11/21/18
7	Mary Poppins Returns	BV	\$105,930,461	4,090	\$153,487,814	69.00%	12/19/18
8	Star Wars: The Last Jedi	BV	\$102,963,014	4,232	\$620,181,382	16.60%	12/15/17
9	A Wrinkle in Time	BV	\$100,478,608	3,980	\$100,478,608	100.00%	3/9/18
10	Disney's Christopher Robin	BV	\$99,215,042	3,602	\$99,215,042	100.00%	8/3/18
11	The Nutcracker and the Four Realms	BV	\$54,541,769	3,766	\$54,858,851	99.40%	11/2/18
12	Coco	BV	\$29,891,816	2,104	\$209,726,015	14.30%	11/22/17
13	Thor: Ragnarok	BV	\$3,833,139	540	\$315,058,289	1.20%	11/3/17

2018年配給作品数13本

合計 \$3,092,343,747 -  
平均 \$237,872,596 -

注記) ランク7位の“Mary Poppins Returns”は執筆時点(2019年2月22日)で興行継続中

注記) 年度比率は越年興行を行っている作品の2018年度期間中の興行収入比率

注記) 配給欄のBVはディズニー作品の配給会社であるBuena Vistaの略号

表 2-1 2018 年ディズニー配給作品の推定レンタル料率 A による配給・興行の売上推移

順位	作品名	制作会社	推定レンタル料率 A (%)																															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26						
1	Black Panther	興行収入	120,954,422	114,445,615	85,479,564	87,066,277	83,811,708	82,176,398	81,489,106	81,529,767	87,968,387	87,186,328	86,321,256	84,273,996	82,707,174	81,174,457	87,466,707	83,688,118	82,126,787	81,281,267	82,011,134	81,330,200	84,238,109	81,869,448	84,573,142	81,592,590	80,540,162	81,815,462	80,500,000	82,288,100	81,869,448	84,573,142	81,592,590	
		邦配	1,000	1,000	4,984	3,842	3,824	2,989	2,247	2,989	1,030	1,030	994	1,230	984	1,230	984	284	284	115	86	115	86	115	86	115	86	115	86	115	86	115	86	
		邦配率	0.8%	0.9%	5.7%	4.4%	4.6%	3.5%	2.7%	3.5%	1.2%	1.2%	1.1%	1.5%	1.2%	1.5%	1.1%	0.3%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	
		邦配率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
		邦配率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
2	Avengers: Infinity War	興行収入	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	678,953,569	
		邦配	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		邦配率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		邦配率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		邦配率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

終了となる事に加えて、買収した Fox が Hulu の大株主であることから今年はネット系動画配信サイトの大幅な勢力図改変が起きそうである。

Poppins Returns”は原稿執筆時点で興行を継続中である。

がさらに低下した場合で実際の上映作品で推定を行った。

さて、何かと話題のディズニーが 2018 年に配給した作品は 13 作品であり、7 億ドルの興行収入をあげた“Black Panther”を筆頭に、6 億 7 千万ドルの“Avengers:Infinity War”と続き、Star Wars の派生作品であるノボ船長を主人公にした“Solo:A Star Wars Story”や“Star Wars:The Last Jedi”等をラインアップしている。全ての作品の興行収入は 30 億 9 千 234 万ドル (1ドル: 110 円換算では 3.401 億円) となり、1 作品毎の平均興行収入は 2 億 3787 万ドルである。なお、表の年度比率は、越年興行である。なお、表の年度比率は、越年興行ではない作品での 2018 年度内興行収入の比率であり、ランクアップとなっている“Mary

数年前からの、封切り後 3 週間でのプレミアム VOD (30 ~ 50 ドル) の視聴料金で封切り直後の作品を有料配信するサービス) が開始されると、米国の映画興行界全体では 5% の売上低下になるとの AMC 幹部の発言もあり、一般的に言われている米国での映画作品レンタル料率と、今後のプレミアム VOD 開始交渉で焦点となる 5% 相当の損失補填に相当するレンタル料率引き下げモデル、さらには 70 年前の独占禁止法違反訴訟に対する“パラマウント合意”見直しが行われていること、封切り週以降の映画作品レンタル料率 (映画チケット価格から配給側に割り戻しを行う料金比率)

封切り週以降の興行収入については、10 年に一度ぐらいは数十スクリーンで公開した作品がクチコミで話題を集めて数ヶ月後には 1,000 スクリーンを越える規模で全米公開となる事例も時々見受けられるが、大半の作品は 3 千スクリーンを越える規模の封切り興行以降は興行収入が数十%単位で下落していき、3 ~ 4 週間後には 1,000 スクリーン以上のスクリーンが上映中止となり、10 週間以降では数百スクリーンで細々と上映を継続することとなり、したがって封切り週の配給側レンタル料金比率は実に 85% と言われている。この料率では、映画館側の取り分は日本の消費税に相当する州税 (7 ~ 8%) を支払うと売店パートスタッフの件数程度しか残らないことになるが、当然のことながら話題作



表 3-1 2018 年ディズニー配給作品の興行 10 週配給収支 (レンタル料率 A)

順位	作品名	封切後経過週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1	Black Panther	平均売上/スクリーン	\$72,625	\$35,683	\$20,930	\$14,586	\$9,359	\$7,471	\$5,853	\$4,197	\$3,664	\$3,724	\$700,059,566	総興行売上
		累積配給売上比率	50.3%	72.1%	83.4%	89.8%	93.0%	95.1%	96.5%	97.4%	98.1%	98.7%	\$493,397,797	配給売上
		累積映画館売上比率	21.2%	38.5%	53.0%	65.5%	75.1%	82.4%	87.5%	90.8%	93.1%	95.2%	\$206,661,769	映画館売上
2	Avengers: Infinity War	平均売上/スクリーン	\$75,622	\$33,008	\$17,959	\$9,704	\$7,246	\$4,313	\$3,819	\$3,734	\$2,815	\$3,199	\$678,815,482	総興行売上
		累積配給売上比率	57.2%	79.2%	89.6%	93.9%	96.3%	97.5%	98.4%	99.1%	99.4%	99.6%	\$502,741,163	配給売上
		累積映画館売上比率	28.8%	49.8%	65.8%	75.7%	84.2%	89.5%	93.2%	96.0%	97.4%	98.3%	\$176,074,319	映画館売上
3	Incredibles 2	平均売上/スクリーン	\$61,099	\$28,285	\$18,408	\$10,755	\$7,076	\$6,260	\$4,782	\$4,556	\$3,532	\$2,919	\$608,581,744	総興行売上
		累積配給売上比率	52.5%	73.9%	86.0%	91.5%	94.2%	96.1%	97.2%	98.0%	98.5%	98.8%	\$436,582,481	配給売上
		累積映画館売上比率	23.5%	41.6%	58.1%	69.7%	78.1%	85.0%	89.4%	92.2%	94.1%	95.4%	\$176,074,319	映画館売上
4	Ant-Man and the Wasp	平均売上/スクリーン	\$24,723	\$10,583	\$6,942	\$4,831	\$4,563	\$3,368	\$2,580	\$2,117	\$2,461	\$1,486	\$216,648,740	総興行売上
		累積配給売上比率	55.8%	76.9%	87.7%	92.8%	95.7%	97.2%	98.2%	98.9%	99.4%	99.6%	\$158,281,921	配給売上
		累積映画館売上比率	26.7%	45.8%	61.5%	72.7%	82.3%	88.8%	92.8%	95.4%	97.5%	98.3%	\$58,366,819	映画館売上
5	Solo: A Star Wars Story	平均売上/スクリーン	\$27,298	\$9,440	\$5,262	\$4,515	\$2,932	\$2,947	\$2,125	\$2,099	\$1,944	\$1,562	\$213,767,512	総興行売上
		累積配給売上比率	62.7%	81.9%	91.0%	95.9%	97.8%	99.0%	99.4%	99.6%	99.7%	99.8%	\$162,000,323	配給売上
		累積映画館売上比率	34.7%	54.6%	70.1%	82.5%	89.8%	95.5%	97.4%	98.2%	98.6%	98.9%	\$51,767,189	映画館売上
6	Ralph Breaks the Internet	平均売上/スクリーン	\$7,098	\$16,188	\$7,762	\$5,312	\$3,530	\$5,088	\$5,675	\$2,808	\$1,817	\$1,934	\$197,230,984	総興行売上
		累積配給売上比率	19.2%	58.0%	74.1%	82.9%	87.4%	91.1%	95.3%	97.1%	98.0%	99.2%	\$125,931,617	配給売上
		累積映画館売上比率	6.0%	28.8%	44.1%	56.8%	66.6%	79.4%	87.6%	92.4%	94.8%	98.0%	\$71,299,367	映画館売上
7	Mary Poppins Returns	平均売上/スクリーン	\$2,155	\$15,182	\$12,725	\$5,009	\$3,088	\$2,990	\$2,212	\$1,556	\$2,002		\$170,028,203	総興行売上
		累積配給売上比率	6.8%	49.0%	79.7%	89.9%	94.0%	97.0%	98.6%	99.6%	100.0%		\$110,298,044	配給売上
		累積映画館売上比率	2.2%	28.2%	58.7%	74.1%	83.4%	91.8%	96.2%	98.9%	100.0%		\$59,730,159	映画館売上
8	Star Wars: The Last Jedi	平均売上/スクリーン	\$70,086	\$39,720	\$19,911	\$7,399	\$5,645	\$3,593	\$3,195	\$2,263	\$2,393	\$2,715	\$620,181,382	総興行売上
		累積配給売上比率	54.0%	81.0%	92.7%	96.4%	98.1%	98.8%	99.3%	99.6%	99.8%	99.8%	\$467,012,254	配給売上
		累積映画館売上比率	29.0%	56.5%	75.7%	84.9%	91.2%	94.7%	96.8%	98.1%	98.9%	99.3%	\$153,169,128	映画館売上
9	A Wrinkle in Time	平均売上/スクリーン	\$11,180	\$5,364	\$3,714	\$3,556	\$2,424	\$1,700	\$1,447	\$3,063	\$1,940	\$781	\$100,478,608	総興行売上
		累積配給売上比率	52.3%	74.4%	85.8%	92.2%	94.8%	95.9%	96.4%	97.0%	97.3%	98.2%	\$72,332,897	配給売上
		累積映画館売上比率	23.7%	42.7%	58.5%	71.9%	80.0%	84.0%	86.1%	88.5%	89.7%	93.0%	\$28,145,711	映画館売上
10	Disney's Christopher Robin	平均売上/スクリーン	\$10,436	\$5,671	\$3,684	\$2,687	\$2,776	\$1,773	\$1,494	\$1,091	\$695	\$479	\$99,215,042	総興行売上
		累積配給売上比率	46.4%	68.7%	81.2%	88.5%	93.8%	96.4%	98.0%	99.1%	99.6%		\$68,842,909	配給売上
		累積映画館売上比率	18.6%	35.4%	50.7%	64.2%	78.9%	87.7%	93.3%	96.0%	96.9%	98.5%	\$30,372,133	映画館売上
11	The Nutcracker and the Four Realms	平均売上/スクリーン	\$6,822	\$3,585	\$4,103	\$1,912	\$1,308	\$1,301	\$1,330	\$1,683	\$1,481	\$678	\$209,726,015	総興行売上
		累積配給売上比率	53.8%	78.7%	90.2%	94.8%	96.8%	98.3%	99.2%	99.5%	99.8%	100.0%	\$40,611,082	配給売上
		累積映画館売上比率	27.1%	50.9%	68.6%	79.3%	86.3%	92.7%	96.4%	97.9%	99.3%	99.8%	\$14,207,769	映画館売上
12	Coco	平均売上/スクリーン	\$5,545	\$15,167	\$8,686	\$6,291	\$4,860	\$7,699	\$6,735	\$3,696	\$3,871	\$2,792	\$209,726,015	総興行売上
		累積配給売上比率	14.7%	50.1%	67.7%	77.9%	83.2%	88.3%	92.8%	94.9%	96.6%	97.4%	\$127,963,694	配給売上
		累積映画館売上比率	4.1%	22.5%	37.4%	50.3%	60.7%	72.6%	83.0%	88.1%	92.0%	93.8%	\$81,762,321	映画館売上
13	Thor: Ragnarok	平均売上/スクリーン	\$37,988	\$17,306	\$10,726	\$6,388	\$4,167	\$2,799	\$2,584	\$2,966	\$2,916	\$2,143	\$315,058,289	総興行売上
		累積配給売上比率	56.5%	79.2%	89.1%	94.0%	96.5%	98.0%	98.8%	99.2%	99.5%	99.6%	\$233,078,644	配給売上
		累積映画館売上比率	28.4%	49.9%	64.9%	76.4%	85.2%	91.5%	95.0%	96.6%	97.7%	98.2%	\$81,979,645	映画館売上

の封切り週ともなると平日の数倍の観客動員となることから売店売上により映画館経営を維持することができているのが現状である。

表 2-1 は、一般的に言われているレンタル料が率封切り週で 85%、翌週が 75%、以降 65%・55%・45%・40%と低減されていくレンタル料率パターンで、各作品の週間チケット売上に対して配給側取り分と映画館側売上を計算して総合的な映画配給・興行側の収益配分が封切り後にどのように変化していくかを集計した表である。レンタル料率が一定であれば、観客動員数が封切り後から徐々に低下していくパターンを元にして、配給側と映画館側での利益について相関関係を類推することが可能であるが、長年の商取引を経て現在の逐次レンタル料率を低減していくビジネスモデルとなっていることに加えて、作品毎に観客動員の動向が異なることから、「映画作品は一人歩きを始める」との言い回しが良くしようされるところである。

興行収入ランク 1 位であった“Black

Panther” は、4,020 スクリーンで封切られ、封切り週は総興行収入 2 億 91 百万ドルを売上、スクリーン平均では 7 万 2625 ドルとなり、昨年度の米国平均チケット価格が \$9.11 であることから観客動員数は 7,972 人となる。週末（金土日で 3 日）の上映回数を 5 回、平日（月火水木で 4 日）の上映回数を 4 回として客席数を 200 と想定すると総稼働客席数は 6,200 席であり、2 スクリーンで上映しても客席稼働率 64%となり、週末は 3 スクリーン上映となるヒット作であることがわかる。この封切り週での興行売上に対して作品レンタル料率を当てはめると配給側収入は 2 億 48 百万ドルとなり、映画館側収入は 43 百万ドルであり、1 スクリーン平均では 1 万 894 ドルとなる。

表 2-1 に示している累積配給興行比率と累積映画館売上比率は、興行終了時点に対する売上比率であり、“Black Panther”では封切り週に配給側は 50.3%の売上を達成し、映画館側は 21.2%の売上にしか到達していない事を示している。

さて、プレミアム VOD 開始と噂されている封切り後 3 週間で“Black Panther”

は順調は興行収入を受けて上映スクリーン数が 64 スクリーン増加し 4,084 となったが、スクリーン平均売上は \$20,930 で観客動員は 2,297 人であった。この時点で配給側の累積配給売上は 83.4%となっており、映画館側の累積売上比率 53%を大きく上回っている。その後も興行を続けるが 16 週には 284 スクリーンと以前パラマウントが中西部の映画館チェーンと合意に達した 300 スクリーンを下回るスクリーン数となり、16 週での平均売上は \$1,296（観客動員数 142 人）であり、興行最終となった 25 週は最終上映のアナウンス効果から前週より 10 スクリーン増加し 25 スクリーンの上映で \$3,622（観客動員 397 人）であり、冒頭に紹介した総客席稼働数からすると 6.4%の客席稼働率である。

この、封切り週興行収入と、その後の観客動員数動向については作品の評判に加えて、競合作品とのジャンル重複や、出演俳優陣のタレント性等が複雑に関係してくることから、いったん銀幕が開いた映画作品の観客動員傾向は“神のみぞ知る”といったところである。



興行収入ランク2位の“Avengers: Infinity War”では、封切り週は“Black Panther”を上回る興行収入であったが、3週以降の興行収入低落傾向に歯止めがかからず、13週には上映スクリーン数が300を割り込み、20週で興行終了となっている。

興行収入ランク3位の“Fantastic Beasts and Where to Find Them”は、300スクリーン割り込みも17週であり、26週まで興行を続けており、24週以降は週間売上が\$500を割り込んでいても興行を継続したところから映画館側にとっては売店売上げが見込める観客層を掴んでいたのではと推測できる。

全13作品の週間売上の推移を見ると興行収入の低下傾向が作品毎にことなることに加えて、映画館側が上映打ち切りを決断する平均売上の分岐点が垣間見えてくる。ところが実に興味深い所である。

表2-2は、映画作品のレンタル料率を配給側が歩み寄って5%下げたと仮定した場合の配給側収入と映画館収入の推定であり、封切り週が80%で、以降70・60・50・40レンタル料率が低減していくモデルである。封切り後3週間でプレミアムVODが開始されたとすると当然の事ながら4週以降の観客動員数が確実に低下していくことになり、映画館側が封切り3週までに以下に興行収入からの分配比率を上げられるかが問題となる所である。

表3-1～表3-3には、封切り後10週間での分配比率を詳細に示しており、図1～図5には上位5作品のスクリーン平均売上で配給側・映画館側の累積売上比率を示している。

図1～5には興行収入上位5作品での週間売上金額とレンタル料率を変えた場合の配給側・映画館側それぞれの累積売上比率（興行終了時点での売上を100%とした場合の達成率）を示しているが、それぞれの作品毎に全く異なる挙動を示しており、今後のプレミアムVOD開始が交渉で議論となる封切り後3・4・5週での配給・映画館側の達成比率に注目して頂きたい。

図1 興行売上1位 Black Panther 封切後10週間収益分析

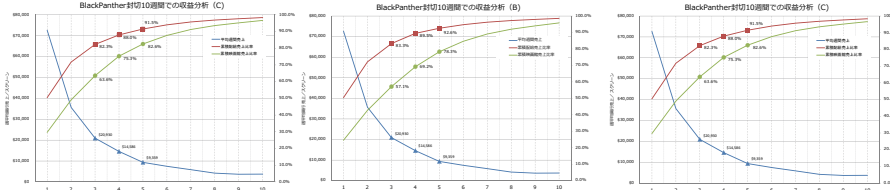


図2 興行売上2位 Avengers: Infinity War 封切後10週間収益分析

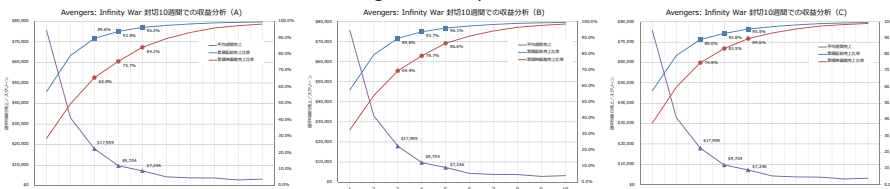


図3 興行売上3位 Incredible 2 封切後10週間収益分析

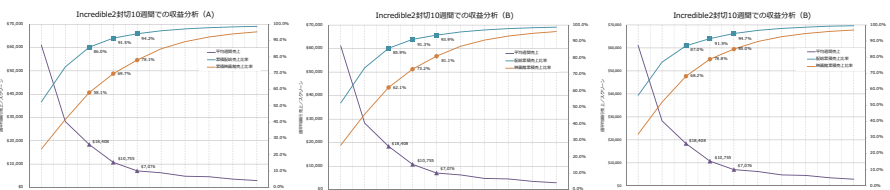


図4 興行売上4位 Ant-Man and the Wasp 封切後10週間収益分析

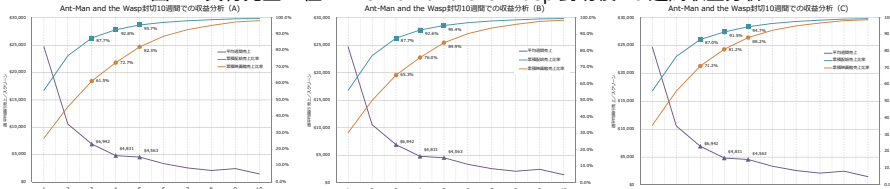


図5 興行売上5位 Solo : A Star Wars Story 封切後10週間収益分析

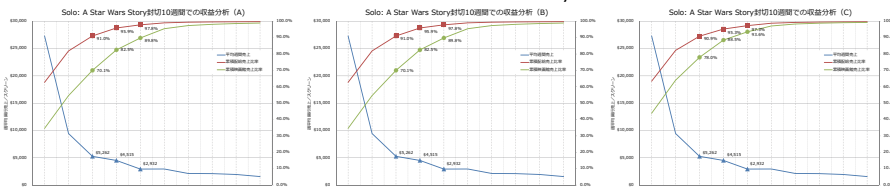


表4 ディズニー2018年配給作品でのレンタル料率による分配比率

	配給総売上	映画館総売上
レンタル料率A	\$2,999,074,825 69.1%	\$1,155,163,460 26.6%
レンタル料率B	\$2,809,240,882 64.7%	\$1,374,274,677 31.7%
レンタル料率C	\$2,449,355,839 56.4%	\$1,734,159,720 40.0%

ディズニー2018年配給作品総興行売上：\$4,339,517,582

レンタル料率：A 85:75:65:55:45:40---

レンタル料率：B 80:70:60:50:40:40---

レンタル料率：C 70:60:50:40:40:40---

表4にはディズニー全作品でレンタル料率を変えた場合の配給総売上と映画館総売上の比較を示しており、現在のレンタル料率では配給側69.1%映画館側26.6%に対して、封切り週の料率を5%低下させると

64.7%：31.7%にまで映画館側の売上が増加し、70年前の亡霊とも言える“パラマウント合意”の見直し終了後にスタジオと映画館側の力関係が変わって欧州地域でのレンタル料率に近い水準にまでレンタル

料率が下がる可能性もかすかにありそうである。

2月25日に選考結果が発表されるオスカー賞で、最大の問題となっているNetflix配給の“Roma”がいくつかの部門で受賞するのか、はたまた商業映画館での再上映がどうなるのかについては非常に興味深いところである。数年前から、NetflixとAmazonによる若手クリエイター主体の映画制作進出は大きな話題となっており、最大の注目点は既存のハリウッドスタイルでの映画制作は構想から撮影・配給に至るまでに時間がかかりすぎていたことから、若手クリエイターの登用が非常にまれであったことである。


ネット系スタジオによる映画制作が主流となってしまうと、映画館での封切り興行自体が過去の遺物となりかねないことから、映画館での興行ビジネスそのものについて様々な議論や提言が始まっている。また、冒頭でも紹介したように市場シェア40%となる新生ディズニーが独自の動画配

信サイトを立ち上げる事に加えて、AT&Tによるワーナー買収についても、まもなく連邦裁判所の最終判断がでるといわれていることから、AT&Tとワーナーによる独自の動画配信サイト開設もカウントダウン状態である。この2大スタジオが、独自動画配信に軸足を置いてNetflixやAmazon、Appleへの動画供給を停止すれば予測不能な業界再編となる可能性が強い。

日本の映画業界と異なり、ハリウッドのスタジオシステムはネット・地上波及びケーブルテレビ・出版・音楽などのメディア産業を網羅する形の企業集団であり、ハリウッドのスタジオは映像制作部門としての位置づけである。したがって、スタジオ作品の配信で利益を上げてきたネット系IT企業は作品提供が途絶えたときに、インディペンデントを含めた新規市場から宝の山を発掘してくるのか、スタジオで低迷しているパラマウントやソニーピクチャーの買収を決断するのが興味深いところである。


中国では、配給側のレンタル料率が40%固定と統制されているが、米国の映画興行業界も“パラマウント合意”以前のスタジオ直営館に対するレンタル料率は40%であったといわれており、独占禁止法適用により、市場原理にまかせた結果が現在の高すぎるレンタル料率になっている経緯もあり、プレミアムVOD解禁に合わせて映画興行業界の生き残りをかけて配給側との交渉がどのように推移していくのかが大いに注目される場所である。

**Ichiro Kawakami**  
デジタル・ルック・ラボ



## ファイルベース自動QCシステム

### file-based Automated QC system



さらに拡大するファイルベース制作ワークフローにおいて、大量のファイル取り込みから配信/納品までの各ポイントにおける品質管理は益々重要になってきています。2003年創業以来、すでに世界で150以上のユーザーの獲得実績を誇る、Venera Technologies社のファイルベースQCシステム「Pulsar (パルサー)」は、豊富な対応フォーマット、独自に柔軟な設定が可能な解析テンプレート機能、オペレータの省力化をサポートする各種自動化機能などを備えた、費用対効果の高い自動QCツールです。

用途ごとにチェックが必要とされる各項目を高速に、確実な一貫したチェックを行い、解析し評価を行います。

● コンテナ  
● メタデータ  
● AVフォーマット  
● 歪みパラメータを  
Check!

任意のポイントで  
Check!

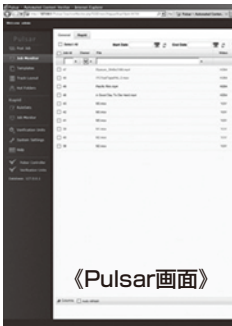
● 多くの現場オペレータの声を反映させた、直感的なユーザーインターフェイスとレポート機能を搭載したQCシステムです。

● コンテンツファイルのコンテナ、メタデータ、AVフォーマット、その他品質パラメータを解析テンプレートに従って高速に自動品質評価します。

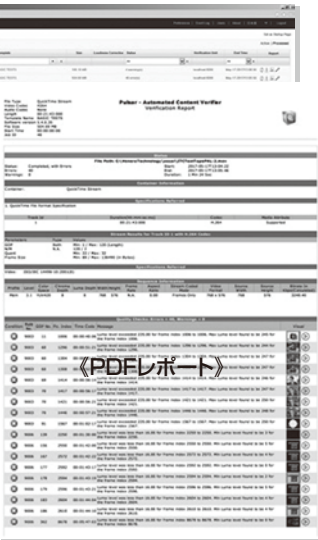
● 特定の検証プロセスに適用できるルール/プロファイル/テンプレートを独自に定義できます。

● HLSやSmooth StreamingフォーマットなどのAdaptive Bitrateコンテンツの解析に対応しています。

● ハーディングPSE解析エンジンをオプション追加可能です。



《Pulsar画面》



《PDFレポート》

ファイルベース自動QCシステム Pulsar (パルサー)

インジェスト

編集

エンコード

インジェスト

トランスコード

配信/納品

AmazonTV  
iTunes  
NETFLIX  
DPP  
Hulu  
...

アーカイブ

放送局 / IPTV / ケーブルTV / OTT

**ITOCHU** 伊藤忠ケーブルシステム株式会社  
クロスメディアソリューション本部 TEL.03(6277)1851  
〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-20-14 高輪パークタワー